

速達

251

藤沢市鵜沼櫻々五十二〇

店島沼走平村

本林 一久 様

清水左



藤沢

6

5.23

藤沢

拜啓 先月は広島市で開催された第廿七回日本原子力産業
学会議にお招きいただきありがとうございました。小生も大いに勉強いた

り有難う感謝しております。現在の重要な問題が次のような
多岐の参加者で盛んに討議され感銘致しました。

^{小生} 京大を定年退官後京都市教育委員を十五年以
てつと現在の義務教育・高校教育・その外は最近の
大学の動向についてもいさゝか知る者として、井田の将来を
擔う青少年の教育や大学の教育研究の現状についても
憂慮の念をますます深くし、若し文部省の
官僚も見識は殆どなく、行政を司る役職にあるの
で、こゝから我が国の教育研究の体制に一大変革を行
はなければ限り、二十世紀の日本が列強に伍し得るべき
という気持ちの普遍は濃くあるべきです。民由り有
志者も今現在の理科教育重視に對し本館を喚起し

文部當局にも反者英断を促す氣運がよろやく旺人に
有つてゐたことは結構なことに存いふやうに明治以来百餘年
続いた文部省という行政の最高機關は世命の急激
な進展に對立出来なくなつてゐることを初感致しやう。
産業界も教育界も憂慮をいつに於ける者が密接に
連絡し、事に當るを上げればならぬと相成りしといふ次第
なり。原産側よりも即ち支援が願ひ中なり。

先日広島にいらした貴兄の御両親と姪女御親族が広島市
爆撃に遭難されたことを初めにおき、一々、舊き感無
量のものがありやうかと。わたくしは荒勝之筆先生の許に
広島市爆撃後三日目に広島に赴き、いつ大人帰郷し
八月十日夜より再び広島に赴き、八月十日の夜に日
本島全土域におよぶ強烈な放射能が分布と測定し、

降下して中性子数と原爆の TNT 換算力の偉力を指定し
 あり。 定年後歐洲の学会の折々各地の大
 所交遊が有る。米日でも、弘島の経験談を請ひせう。こ
 こが、多ういざ、おしやう。一九八二年の後輩は弘島原
 爆の避難の奇に助かり、高文化研究所の後輩と
 して、核物理の実験を、いま古故柳父琢治兄が一九八二
 年の定年後官の折に、化学の英文報告に、その場、四角
 半を託裁し、おさとし。其後は、世界各地の諸語
 を依頼する折、これを、おさとし。いりり。
 先日、弘島に参る。折、う。宿文の、ゼンツリス、一部持り、
 いま、おさとし。リチャード・ローズ氏が、欲いが、いりり。
 一、おさとし。う。宿文は、終部が、終る。おさとし。改
 め、ゼンツリスを、作り、おさとし。う。おさとし。おさとし。
 送り、おさとし。おさとし。おさとし。おさとし。おさとし。

茲に改め一部を送りし事、尚 達り此時の行状に
ついで日本文學教授にあり水谷故子堀誠二氏が二十
豫前 茲に本坊より資料を呈供し古ものが昭和四年三月
三一日広島県より発行され広島県史一原爆資料編のそ
に記載されいふ事あり。既に本坊より一水も本人がたつた
と今朝より一水も同封しあり。

最近佐の桐子が一書惠しの、万事スローモーションにありしに約
束り文、献古を送りするの、通水より大に、茲に同封

恐惶敬具

平成六年五月二十一日

京都

村ノ久様

清水繁